

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第61号(2012.03.31)
事務局川西地区自主防災会

平成23年度自主防災組織リーダー研修を振り返って

香川県危機管理総局危機管理課

去る3月8日(木)に、香川県消防学校において「平成23年度自主防災組織リーダー研修」を開催しました。今年度は、県内各地の自主防災組織のリーダー等約60名が受講し、山口大学大学院の瀧本浩一准教授による基調講演及びD I G、さらにはかがわ自主ぼう岩崎代表世話人による講演及び意見交換会という盛り沢山のメニューとなりました。

まず、瀧本先生の講義が行われました。

講義では、東日本大震災から得られた教訓のほか、地域に潜む災害リスクについて、普段は隠れているが、あるとき化け物のように現れる「幽霊」に例え、普段からこれらを探ることが重要であること、さらには持続可能な自主防災組織への取組みとして防災活動が休止しないよう、運動会などの地元の年間行事に防災活動を盛り込むなどにより、日常化、平凡化することの重要性などを分かりやすく説明いただきました。



また、D I Gにおいては、各テーブルごとに実際に住んでいる市町の地図を用いて、南海地震の被害想定などを踏まえた地元の地域特性を把握する訓練が行われ、受講者は熱心に取り組んでいました。

続いて、かがわ自主ぼう岩崎代表世話人による東日本大震災の被災地でのボランティア活動活動を通じての体験談や、香川県の自主防災組織の現状分析、さらには、これからの自主防災組織のあるべき姿についての提言がありました。この後、岩崎代表世話

人の司会による意見交換会が行われ、当初はさすがに多少重い雰囲気もありましたが、次第に受講生からもいろいろな質問や意見が出され、岩崎代表世話人からも「やはり口を開いてもらうことは重要だなあ」との事後コメントをいただいたところです。

最後になりましたが、今回の研修の講師の先生方をはじめ、サポートいただいた方々、そして研修にご参加の皆様にご挨拶申し上げます。ぜひ、今回の成果を地域に持ち帰り活かしていただければと思います。



—我が家の耐震診断—

…結果は「倒壊する可能性が高い」

岩崎 正朔

昨年の12月上旬丸亀市役所へ申請、その後香川県建築士事務所協会を訪ねて、耐震診断を行う建築設計事務所を紹介してもらった。

1月下旬打合せを行った後、2月10日すぎ現場調査、2月20日頃から技術者2名によって、耐震調査を実施。その後10日間ほどして、我が家の耐震診断報告書が出来上がった。

昭和46年から47年にかけて新築した我が家は、高知産の檜（原木）を購入して2日間製材所を借り上げて建築材として加工、4寸角の柱や9～12mmの板を作って、大工職人も高知から4名招いて、我が家を作った。私自身も災害に強いものと自負しておりました。しかし、診断の結果は、惨憺たるものであった。

昭和56年に制定された建築基準法に則っての診断基準。大きな減点要素は

- ① 建物隅に火打ちが無い
- ② 筋交い接合部が釘打ちになっている
- ③ 外壁材に耐性が不足している
- ④ 木材接合部に強度のある金物等が使用されていない
- ⑤ 強度壁が建築面積比において不足
- ⑥ 台所壁のブロックに強度不足

階	方向	評点
2	X	0.63
	Y	0.70
1	X	0.34
	Y	0.63

以上の診断結果によって「上部構造評点」は、0.34となりました。

総合評価	0.34
倒壊する可能性が高い	

対策として

- | | | |
|--------------|------|-----------------------------|
| 1) 筋交いの新設 | 12カ所 | } などの 増強工事が必要 となります。 |
| 2) 強度補強の合板張り | 10カ所 | |

尚、診断費用は101,000円、助成金60,000円をいただき自己負担は41,000円で済みました。この後は、資金調達を行って耐震対策工事を行うのみとなりました。

上部構造評点基準値	
1.5以上	倒壊しない
1.0～1.5	一応倒壊しない
0.7～1.0	倒壊する可能性がある
0.7未満	倒壊する可能性が高い

離任のご挨拶

元香川県防災局長 丹 睦宏



このたびの人事異動により水道局で勤務することになりました。防災局勤務の2年間、皆様方には大変お世話になりました。心からお礼申し上げます。

着任してからの2年間は、あっという間に過ぎてしまいました。特に、昨年3月11日の東日本大震災発生以降、被災地支援、県の防災対策の総点検や見直し、地域防災計画の修正など防災局は本当にあわただしい1年でした。平成24年度においても、地震・津波の被害想定の見直しや災害情報の収集伝達体制の見直しなどを行うこととしています。

また、4月からは、1月号でお話した自主防災組織が行う実践的な訓練に対する補助制度も始まります。具体的な実施に当たってはお住まいの市町にご相談いただくこととなりますが、それぞれの地域での自主防災力を向上させるため、この制度の活用をお願いします。

さて、4月から勤務する水道局は、重要なライフラインの一端を担う重要な部局で防災行政とも関わりがありますので、今後とも引き続きよろしくお祈りいたします。

最後になりましたが、「かがわ自主ぼう連絡協議会」と皆様方の今後益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

元防災局危機管理課副課長 田井 慎二

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では津波災害等で非常に多くの方が犠牲になりました。また、本県では夏の台風による水害や直島町での大規模林野火災などいろいろな災害が発生したことなどもあり、県民の災害に対する関心や自主防災組織に対する期待も非常に高まっております。

県においても、平成24年度から新たな制度を設け、自主防災組織の支援など地域の防災力を強化する取組みの支援に一層努めることとしています。

このような中、2年という短い期間で防災局を去ることになりましたが、皆様のご尽力と県の防災行政へのご協力に感謝申し上げますとともに、協議会の今後益々のご発展をお祈りいたします。たいへんありがとうございました。

元防災局危機管理課長補佐 竹本 雅晴

東日本大震災直後の平成23年4月1日に配属となって、1年と短い期間ではありましたが、岩崎会長をはじめ、役員の皆様には、何かとお世話になり感謝しております。協議会の皆様が、共助の要である自主防災組織の充実・強化のために今なすべきことを、真剣に議論し、また、一つ一つ確実に実現していく姿に深く敬意を表するとともに、「かがわ自主ぼう連絡協議会」が自主防災組織をつなぐ団体として全国に先駆けて、誕生したことは本県の大きな財産であると再認識したところであります。

このたび、他部局に異動いたしますが、これからは、地元コミュニティ防災部会のメンバーとして活動いたしますので、今後とも、ご指導のほどよろしくお祈りいたします。

かがわ自主ぼう事務局より

1. 防災局の皆さんの異動が発表になりました

人事異動のシーズンとなりましたが、お世話になった、丹局長、田井副課長、竹本補佐の皆さん新しい職場への異動となり、私供が防災局へお伺いするようになって、3人の局長さんが移動いたしました。

今後のご活躍をお祈り申し上げます。



2. 平成23年度を振りかえって

平成23年度つつがなく終了と書きたいところですが、東北地方への支援、更には県内自主防災組織の活動調査と非常にタイトな1年だったと感じています。乗り越えてこれたのは、役員をはじめ県内主要自主防災会のおかげだと感謝申し上げます。

3. 平成24年度より助成制度がスタートします

平成24年度から学校現場（PTA含む）との防災訓練に助成制度がスタートします。この制度を生かして、しっかりとした地域防災力の向上につなげたいと思っていますし、「かがわ自主ぼう」も人的・物的資源でもって支援したいと考えています。



編集後記

今月の防災減災の輪の原稿は、香川県危機管理総局危機管理課様にお問い合わせしました。ありがとうございました。